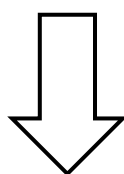


前方選抜による品種開発

＜従来の品種開発（後方選抜）の課題＞

- 優良品種とは、その種（たね）や穂木により、成長などに優れた苗木を作る能力を持ったもの。
- これまでの品種開発のための選抜方法（後方選抜）は、その木が品種となるかどうかを確認するために、その木からの苗木の成長を調べるので10年以上の長い年月が必要。
- ニーズに応じたタイムリーな品種の提供が困難。



＜新たな技術（前方選抜）の導入＞

- 新たに導入した選抜方法（前方選抜）は、苗木を作らず、その木や親兄弟の成長などのデータ分析により品種となるかどうかを判断できるので、短期で品種決定が可能。
- ニーズにすばやく応えることが出来、林業の成長産業化等に貢献。

【後方選抜】

苗木の情報を使って品種を選抜する方法



【前方選抜】

苗木は作らず、自身の情報と親兄弟等の情報を使って品種を選抜する方法

